

委員会 レポート

～所管事務調査報告～



経済・建設委員会

6月25日～26日

今年度実施した行政視察研修の概要についてレポートします。

売れるものづくり

福島県観光物産館・道の駅
山形県 道の駅たかはた

福島県観光物産館、道の駅たかはたの両施設とも指定管理者制度を導入して管理運営を行っている。職員の配置や人件費に苦慮している実態があった。福島県のように、売れる物づくりを組織だてて、継続的に開発していく手法は、

本市にとって今後の研究課題となった。地域条件の異なる中で、どのような開発をしていくか、その研究の必要性を改めて認識した。

企業誘致を推進

福島県須賀川市 空港を
いかしたまちづくり

須賀川市では、福島空港の地元である優位性を生かし、「職・住・遊・学」の複合都市須賀川テクニカルリサーチガーデンに、地元雇用創出と地域全体の技術の向上が図れる企業誘致に取り組んでいる。インフラ整備は北関東からの福島空港流入向上を目指し、空港アクセス道路の整備を進めている。本市でも、茨城空港の開港に向けて、市の自立と快適に暮らせる住みよいまちづくり事業の推進を図らなければならない。

うるおいのあるまち

山形県南陽市 下水道事業

南陽市は「安全で安心なうるおいのあるまち南陽」を掲げ、公共水域の水質保全や市街地の雨水対策事業に先進的に取り組んでいる。事業効果の向上を図るため、「効率化重点化計画」を作成し、「コスト縮減・スピードアップ」の方策を方針とし、

普及・整備率の向上に努めていた。本市も各種下水道の推進や加入促進、施設の適切な維持管理を徹底していかなければならない。



総務・教育厚生委員会

7月18日～19日

改革はスピード

埼玉県志木市 行政改革

志木市の行政改革は、43の取組項目ごとに、年度内の実施計画を立て、事後評価システムによる評価結果を数値化し、市民に公表し市政の透明性を図っていることが特色である。その成果は、現市長のリーダーシップと前市長の「改革はスピード」の方針のもと職員意識改革が進んでいたことが背景にあった。本市が平成21年度本格実施を予定している行政評価システムの導入に向け、生きた実例として大いに参考になった。

長寿あんしんプラン

埼玉県和光市 介護保険

和光市は介護予防では全国有数の先進地である。平成15年第2期介護保険事業計画で市独自の「長寿あんしんプラン」を策定し、地域重視の介護予防や居宅介護限界点の追及・保健福祉事業と特別給付の導入の政策展開をしている。介護予防は、生きがいや自己実現を支援し、健康寿命をできる限り伸ばすことを目標として、積極的に事業を進めていた。本市でも取り入れることができる点が多くあると思われる。

民間委託で経費削減

栃木県高根沢町教育委員会
学校給食センターの管理運営

高根沢町では、平成14年度から調理・配送業務の民間委託をして、また、こどもみらい課学校教育担当リーダーが給食センター所長を兼務して、人件費抑制の努力をされていた。給食内容は、紙マルチ栽培米の使用や地場産品の利用比率が高い状況であった。本市も3給食センター運営の経常経費の削減に努め、安全、安心で、児童・生徒から喜ばれるおいしい給食を目指したい。

市民が親しむ広報紙を
福島県いわき市議会
議会報について



広報委員会

8月21日

いわき市議会だよりの名称は「ほうれんそう」と、親しんで読んでもらえるよう市民から募集し、「報告、連絡、相談」の重要性や、ほうれん草から連想するパワーと活力ある議会を掛けて決定した。一般質問の原稿は本市議会と同様、質問した議員自身が編集に当たっている。また、点字・声のたよりの発行やインターネットライブ中継など、広く市民に議会を理解してもらうよう努められていた。本市議会でも市民が参加した広報紙づくりを、より議会に興味を持っていただけるよう今後も研鑽していきたい。